



Sun Blade™ X6270 サーバーモ ジュールご使用にあたって

Supplemental Release 1.3 および 2.0.1

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-7777-11
2009 年 8 月、Revision A

このドキュメントに関するコメントを送信するには、<http://docs.sun.com> にある「Feedback[+]」リンクをクリックします。

Copyright © 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に組み込まれた技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Java、Sun Blade は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

Intel は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴマークは、Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー・インタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

予備または交換用の CPU の使用は、米国の輸出法に従って輸出された製品に搭載されている CPU の修理または 1 対 1 での交換に制限されています。米国政府の許可なしに、製品のアップグレードに CPU を使用することは、厳重に禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



Adobe PostScript

Sun Blade X6270 サーバーモジュール ご使用にあたって

本書では、Sun Blade X6270 サーバーモジュールのリリースに関する最新情報と注意事項を説明します。各課題には、Sun Service 要員の参照用に提供される、内部の変更要求 (CR) 番号が関連付けられます。必要な場合は Sun Service 要員は CR 番号を参照し、課題に関する追加情報を入手できます。

項目	リンク
一般情報	<ul style="list-style-type: none">• 3 ページの「Supplemental Software Release 1.3 および 2.0.1 でサポートされているファームウェア」• 4 ページの「BIOS ファームウェアで使用されている Intel マイクロコードと参照コードのバージョン」• 4 ページの「Sun からのファームウェアの更新」• 4 ページの「Sun Blade X6270 サーバーモジュールのドキュメント」• 5 ページの「Sun Blade X6270 サーバーモジュール用のツールとドライバ DVD」• 5 ページの「Sun Blade X6270 サーバーモジュールのサポートとパッチ」• 5 ページの「Sun 以外の Web サイト」
ハードウェアとソフトウェアの新機能	<ul style="list-style-type: none">• 6 ページの「特定の DIMM 構成でのパフォーマンスの向上」• 6 ページの「追加のオペレーティングシステムのサポート」

項目	
説明	リンク
解決された課題	<ul style="list-style-type: none"> 7 ページの「ハードウェア関連の解決された課題」 8 ページの「BIOS 関連の解決された課題」 8 ページの「ILOM 関連の解決された課題」 9 ページの「Solaris 関連の解決された課題」 10 ページの「Linux 関連の解決された課題」
解決されていない 既知の課題	<ul style="list-style-type: none"> 12 ページの「ハードウェア関連の既知の課題」 12 ページの「BIOS 関連の既知の課題」 13 ページの「ILOM 関連の既知の課題」 16 ページの「VMware 関連の既知の課題」 18 ページの「Solaris および OpenSolaris 関連の既知の課題」 22 ページの「Linux 関連の既知の課題」 27 ページの「Windows 関連の既知の課題」 31 ページの「Sun Installation Assistant の既知の課題」 35 ページの「ドキュメント関連の既知の課題」

一般情報

項目	
説明	リンク
この補足で利用可能なファームウェア	<ul style="list-style-type: none"> 3 ページの「Supplemental Software Release 1.3 および 2.0.1 でサポートされているファームウェア」
BIOS ファームウェアで使用されている Intel マイクロコードと参照コード	<ul style="list-style-type: none"> 4 ページの「BIOS ファームウェアで使用されている Intel マイクロコードと参照コードのバージョン」
ファームウェア更新用のダウンロードサイト	<ul style="list-style-type: none"> 4 ページの「Sun からのファームウェアの更新」
最新の製品ドキュメント用のダウンロードサイト	<ul style="list-style-type: none"> 4 ページの「Sun Blade X6270 サーバーモジュールのドキュメント」
Sun Blade X6270 サーバーモジュールのサポート情報	<ul style="list-style-type: none"> 5 ページの「Sun Blade X6270 サーバーモジュールのサポートとパッチ」
新しいハードウェアとソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> 6 ページの「ハードウェアとソフトウェアの新機能」

Supplemental Software Release 1.3 および 2.0.1 でサポートされているファームウェア

この更新には、2つの Supplemental Releases が含まれています。1つは ILOM 2.0 を実行しているサーバー用、もう1つは ILOM 3.0 を実行しているサーバー用です。

- Supplemental Release 1.3 は、ILOM 2.0 を実行しているサーバー用です。
- Supplemental Release 2.0.1 は、ILOM 3.0 を実行しているサーバー用です。

表 1 に、サポートされている ILOM と BIOS ファームウェアのバージョンを示します。

表 1 Supplemental Software Release で利用できる X6270 サーバーモジュール用のファームウェア

Supplemental Software Release	X6270 サーバーモジュール用の ILOM SP ファームウェア	ILOM CMM ¹ ファームウェア	BIOS ファームウェアサーバーモジュール
2.0.1 (ILOM 3.0 を実行しているシステム用の最新の更新)	3.0.3.35.a	2.0.3.10 (最小限のサポート対象) および 3.0.3.32*	07.05.01.01
2.0	3.0.3.35	2.0.3.10 (最小限のサポート対象) および 3.0.3.32*	07.03.00.03
1.3 (ILOM 2.0 を実行しているシステム用の最新の更新)	2.0.3.15	2.0.3.10*	07.04.40.02
1.2	2.0.3.14	2.0.3.10*	07.02.39.01
1.1	2.0.3.8 (r43734)	2.0.3.10*	07.02.39.00
1.0	2.0.3.8 (r42527)	2.0.3.10*	07.01.38.03

¹ シャーシ監視モジュール
* またはそれ以降のリリース



注意 – Sun Blade X6270 用の新しい ILOM ファームウェアのリビジョンは 3.0.3.35.a です。ソフトウェアの古いバージョンにサーバーをダウングレードすることもサポートされています。ただし、Supplemental Release 1.2 を下回るバージョンにダウングレードする場合は、システムのサービスプロセッサが動作しなくなるリスクがあり、その場合は問題を解決するために Sun Service に問い合わせる必要があります。

BIOS ファームウェアで使用されている Intel マイクロコードと参照コードのバージョン

表 2 に、Supplemental Releases 1.3 および 2.0.1 用の BIOS ファームウェアイメージで使用されている Intel マイクロコードと RC 参照コードのバージョンを示します。

表 2 Supplemental Releases 1.3 および 2.0.1 用の BIOS ファームウェアで使用されている Intel マイクロコードと参照コード

Intel ソフトウェア	バージョン
Intel CPU のマイクロコード	SRV_C_81
Intel RC	1.05
Intel CPU の参照コード	1.02
Intel QuickPath Interconnect (QPI) の参照コード	1.05
Intel メモリー参照コード (MRC)	1.05

Sun からのファームウェアの更新

最新の ILOM と BIOS ファームウェアは、Sun Blade X6270 サーバーモジュールにインストールされた状態で出荷されています。このファームウェアを再インストールする必要がある場合や、このファームウェアに対する更新を取得する場合は、Sun Blade X6270 サーバーモジュール用のファームウェアを次の場所で取得できます。

- <http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp>

Sun Blade X6270 サーバーモジュールのドキュメント

Sun Blade X6270 サーバーモジュール用の製品ドキュメントと、更新されたプロダクトノートは、次の Sun マニュアル Web サイトから入手できます。

- <http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6270>

Sun Blade X6270 サーバーモジュール用のツールとドライバ DVD

Sun Blade X6270 サーバーモジュール用のツールとドライバ DVD は、注文に応じて出荷されます。この DVD には、サーバーモジュールとともに使用するためのデバイスドライバ、RAID 管理ソフトウェア、およびほかのソフトウェアユーティリティーが収録されています。この DVD のコピーが必要な場合や、この DVD で提供されているソフトウェアに対する更新が必要な場合は、Sun Blade X6270 サーバーモジュール用の最新のツールとドライバ DVD を次の場所からダウンロードできます。

- <http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp>

Sun Blade X6270 サーバーモジュールのサポートとパッチ

Sun Blade X6270 サーバーモジュールのサポート情報とパッチは、次の場所で入手できます。

- <http://sunsolve.sun.com>

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

ハードウェアとソフトウェアの新機能

項目	
説明	リンク
ハードウェアの拡張	• 6 ページの「特定の DIMM 構成でのパフォーマンスの向上」
ソフトウェアの拡張と情報	• 6 ページの「追加のオペレーティングシステムのサポート」

特定の DIMM 構成でのパフォーマンスの向上

Supplemental Software Release 2.0 では、4GB バイト 1333 MHz の DIMM をチャンネルあたり 2 DIMM の構成で使用するときパフォーマンスが向上するようになりました (プロセッサあたり最大 6 個の DIMM)。Supplemental Software Release 2.0 より前では、チャンネルあたり 2 個の DIMM を使用するすべての構成は、1066 MHz に制限されていました。

注 - このパフォーマンスの向上は、4GB の 1333 MHz DIMM に限定されていて、Supplemental Software Release 以降でサポートされます。

追加のオペレーティングシステムのサポート

この Supplemental Software Release では、Sun Blade X6270 サーバーモジュールは次のオペレーティングシステムの新しいエディションをサポートするようになりました。

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.8
- OpenSolaris 2009.06

次の情報の詳細は、Sun Blade X6270 Server Module Linux, VMware, Solaris, and OpenSolaris Operating Systems Installation Guide (Sun Blade X6270 サーバーモジュール Linux, VMware, Solaris, および OpenSolaris オペレーティングシステムインストールガイド) (820-7768) を参照してください。

- 前述のオペレーティングシステムのインストールに関する説明
- サポートされているオペレーティングシステムの完全なリスト

注 - この Supplemental Software Release では、OpenSolaris 2009.06 オペレーティングシステム (OS) を出荷時にサーバーのディスクドライブにプリインストールするよう要求することもできます。OpenSolaris 2009.06 OS を出荷時にインストールするための構成の詳細は、Sun Blade サーバーモジュール設置マニュアル (820-7765) を参照してください。

Supplemental Release 2.0.1 で解決された課題

項目	
説明	リンク
ハードウェア関連の解決された課題、説明、および修正情報	<ul style="list-style-type: none">• 7 ページの「ハードウェア関連の解決された課題」
BIOS 関連の解決された課題、説明、および修正情報	<ul style="list-style-type: none">• 8 ページの「BIOS 関連の解決された課題」
ILOM 関連の解決された課題、説明、および修正情報	<ul style="list-style-type: none">• 8 ページの「ILOM 関連の解決された課題」
Solaris 関連の解決された課題、説明、および修正情報	<ul style="list-style-type: none">• 9 ページの「Solaris 関連の解決された課題」
Linux 関連の解決された課題、説明、および修正情報	<ul style="list-style-type: none">• 10 ページの「Linux 関連の解決された課題」

ハードウェア関連の解決された課題

表 3 ハードウェア関連の解決された課題

CR	説明
6853524	<p>Sun x4 PCIe Quad Gigabit Ethernet Express Module (X7284A-Z) の発見に失敗することがある</p> <p>課題: 非常にまれな状況で、Sun x4 PCIe Quad Gigabit Ethernet Express Module (X7284A-Z) が検知されないことがあります。これは、モジュールが使用できないことを意味します。</p> <p>影響を受けるハードウェアとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270 サーバーモジュール.• Supplemental Release 1.0、1.0.1、1.1、1.2、および 2.0 <p>使用可能な修正: この課題は、Supplemental Release 1.3 および 2.0.1 で修正されています。</p>

BIOS 関連の解決された課題

表 4 BIOS 関連の解決された課題

CR	説明
6849127	BIOS によってセキュリティーの脆弱性が発生する可能性がある
	課題: BIOS に含まれるセキュリティーの脆弱性が原因で、特権コードを完全に実行できるローカルの権限ユーザーに、CPU のシステム管理モードへのアクセス、または BIOS 内にある任意のコードを許可する可能性があります。
	影響を受けるハードウェアとソフトウェア <ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270 サーバーモジュール• Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0
	使用可能な修正: この課題は、Supplemental Release 1.3 および 2.0.1 で修正されています。アップグレードをインストールしてください。

ILOM 関連の解決された課題

表 5 ILOM 関連の解決された課題

CR	説明
6850424	ILOM 2.0 から ILOM 3.0.3.35 にアップグレードしたあと、ILOM によって報告された電力測定値が低くなる
	課題: サーバーを ILOM 2.0.x.x から ILOM 3.0.3.35 にアップグレードしたあと、permitted_power および available_power に関する電力測定値が小さくなります。測定値の減少量は、サーバーに取り付けられているメモリー DIMM の数によって異なります。
	影響を受けるハードウェアとソフトウェア <ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270 サーバーモジュール• ILOM 3.0.3.35• Supplemental Release 1.0、1.2、および 2.0
	使用可能な修正: この課題は、Supplemental Release 2.0.1 で修正されています。

表 5 ILOM 関連の解決された課題

CR	説明
6862764	起動前回復機能を使用して SP ファームウェアをアップグレードするときに BIOS が壊れることがある
	課題: .flash ILOM イメージに基づき、起動前 (uboot) ILOM 回復の手法を使用する ILOM 回復のアップグレードの手順に従うと、ホストの BIOS ソフトウェアが壊れることがあります。この結果、ホストを正しく電源投入できなくなることがあります。
	影響を受けるソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> • ILOM 3.0 • Supplemental Release 2.0
	使用可能な修正: この課題は、Supplemental Release 2.0.1 で修正されています。

Solaris 関連の解決された課題

表 6 Solaris 関連の解決された課題

CR	説明
6821501	シリアルコンソールを使用している場合は Jumpstart インストールが動かなくなる
	課題: シリアルコンソール (/SP/console) を使用して Solaris の Jumpstart インストールを実行している場合は、パッケージのインストール中にインストールが動かなくなることがあります。この現象が発生した場合は、インストールを完了できず、ホストをリブートする必要が生じます。
	影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> • Sun Blade X6270 サーバーモジュール • Solaris 10 10/08, Solaris 10 05/09, OpenSolaris 2008.11, および OpenSolaris 2009.06 • Supplemental Release 1.0, 1.2, および 2.0
	使用可能な修正: この課題は、Supplemental Release 1.3 および 2.0.1 で修正されています。

Linux 関連の解決された課題

表 7 Linux 関連の解決された課題

CR	説明
6808230	<p>REM が付属していない ICH10 オンボード HBA で SATA ドライブを使用するとストレージドライブの LED の点灯が正しくない</p> <p>課題: RAID 拡張モジュール (RAID Expansion Module、REM) が付属していないサーバーでは、ストレージドライブスロット 1 ~ 3 で、ストレージドライブの Fault LED と OK-to-Remove LED の点灯が正しくありません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.3 • SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>使用可能な修正: ドライバの修正が各 OS 用にバックポートされ、現在使用可能になっています。更新された AHCI ドライバを含む最新のエラッタカーネルをインストールします。</p> <p>SLES11: このバグを修正する、SLE(S/D) 11 用カーネルの更新がすでにリリースされています。カーネルのバージョンは 2.6.27.23-0.1.1 であり、Novell のダウンロードサイトから入手できます。 このカーネルを http://www.novell.com/linux/security/advisories/2009_32_kernel.html からダウンロードできます。</p> <p>RHEL5.3: Red Hat Enterprise Linux 5 用に、いくつかのセキュリティーの課題といくつかのバグを修正した、更新されたカーネルパッケージが現在入手できます。カーネルのバージョンは 2.6.18-128.1.14 であり、Red Hat のダウンロードサイトから入手できます。次の場所でダウンロードリンクを取得できます。 http://rhn.redhat.com/errata/RHSA-2009-1106.html</p>

解決されていない既知の課題

項目	
説明	リンク
ハードウェア関連の既知の課題、説明、および回避策	• 12 ページの「ハードウェア関連の既知の課題」
BIOS 関連の既知の課題、説明、および回避策	• 12 ページの「BIOS 関連の既知の課題」
ILOM 関連の既知の課題、説明、および回避策	• 13 ページの「ILOM 関連の既知の課題」
VMware 関連の既知の課題、説明、および回避策	• 16 ページの「VMware 関連の既知の課題」
Solaris および OpenSolaris 関連の既知の課題、説明、および回避策	• 18 ページの「Solaris および OpenSolaris 関連の既知の課題」
Linux 関連の既知の課題、説明、および回避策	• 22 ページの「Linux 関連の既知の課題」
Windows 関連の既知の課題、説明、および回避策	• 27 ページの「Windows 関連の既知の課題」
Sun Installation Assistant 関連の既知の課題、説明、および回避策	• 31 ページの「Sun Installation Assistant の既知の課題」
ドキュメント関連の既知の課題、説明、および回避策	• 35 ページの「ドキュメント関連の既知の課題」

ハードウェア関連の既知の課題

表 8 ハードウェア関連の既知の課題

CR	説明
6795890	コンパクトフラッシュ (CF) デバイスを使用している場合は USB デバイスが BIOS の Boot Order 内に表示されない
	課題: まれな状況で、コンパクトフラッシュ (CompactFlash、CF) コネクタを使用して CF デバイスを接続している場合に、一部の USB デバイスが BIOS のブートリスト内でアクセスできなくなることがあります。
	影響を受けるハードウェアとソフトウェア <ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270• Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0
	回避方法: システムを再起動します。再起動後も問題が解決しない場合は、保守呼び出しを実行してください。

BIOS 関連の既知の課題

表 9 BIOS 関連の既知の課題

CR	説明
6757722	LSI ユーティリティのドライブ列挙が誤解を招く
	課題: ドライブ列挙が誤解を招きます。スロット列挙は、0,1,2,3、または 1,2,3,4 であるべきです。LSI ユーティリティによってスロット 4 および 5 にあると表示されるドライブは、上端にある 2 つのドライブ (2 と 3) です。
	影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア <ul style="list-style-type: none">• サポートされているすべてのオペレーティングシステム• Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0
	回避方法: 回避方法はありません。パッチが入手可能かどうか確認してください。

ILOM 関連の既知の課題

表 10 ILOM 関連の既知の課題

CR	説明
6806444	<p>CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトするときに、Windows クライアント上の Sun ILOM リモートコンソールがハングすることがある</p> <p>課題: Windows クライアントを使用して Sun ILOM リモートコンソールから CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトする場合、Sun ILOM リモートコンソールが応答しなくなることがあります。</p> <p>影響を受けるソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • ILOM 2.0 以降、および ILOM 3.0 以降 • Sun ILOM 遠隔コンソール • Java 1.6.0_07 • クライアントシステム上にインストールされた Windows オペレーティングシステム <p>回避方法: Windows クライアント上で Sun ILOM リモートコンソールウィンドウを閉じ、次の回避策のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Linux クライアントまたは Solaris クライアントを使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動し、CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトします。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows、Solaris、Linux いずれかのシリアル端末、または SSH クライアントを使用して ILOM 3.0 内の Storage Redirection ユーティリティを起動し、CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトします。 <p>注 - Storage Redirection ユーティリティは、ILOM 3.0 でのみ使用できるコマンド行ユーティリティです。Storage Redirection ユーティリティの使用方法は、http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic の ILOM 3.0 Documentation Collection を参照してください。</p>

表 10 ILOM 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6795975	<p data-bbox="418 239 1243 274">後続の ILOM セッションの KVMs インタフェースが機能しないことがある</p> <p data-bbox="418 282 1243 413">課題: 同一のサービスプロセッサで複数の ILOM リモートコンソールセッションを開く場合に、追加のセッションのキーボードインタフェースが機能しないことがあります。最初のセッションのキーボードインタフェースは影響を受けません。</p> <p data-bbox="418 421 1243 491">影響を受けるソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 </p> <p data-bbox="418 499 1243 682">回避方法: <ul style="list-style-type: none"> • Sun ILOM リモートコンソールウィンドウをダブルクリックしてマウスを有効にし、次にマウスを移動します。 または <ul style="list-style-type: none"> • ILOM リモートコンソールのメニューバーで「デバイス」->「マウス」を選択し、次にマウスを移動します。 </p>
6800702	<p data-bbox="418 699 1243 734">64 ビット JRE から Sun ILOM リモートコンソールの起動に失敗する</p> <p data-bbox="418 743 1243 951">課題: 64 ビット JRE を使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動する場合に、Storage Redirection ユーティリティの起動に失敗することがあります。64 ビット JRE は 64 ビットシステムではデフォルトであるため、32 ビット JRE をダウンロードする必要が生じることがあります。64 ビット JRE を使用して Storage Redirection を起動したときに「Unsupported platform」というエラーが表示されます。</p> <p data-bbox="418 960 1243 1029">影響を受けるソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 </p> <p data-bbox="418 1038 1243 1149">回避方法: 64 ビットシステムに 32 ビット JRE をインストールしてください。JRE は次の場所からダウンロードできます。 http://java.com/en/download/index.jsp</p>

表 10 ILOM 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6840591	<p data-bbox="498 239 1325 296">ILOM の管理をサイドバンドと帯域外の間で切り替えたときに IPMI GUID が変化する</p> <p data-bbox="498 314 1325 545">課題: ILOM の管理をサイドバンドと帯域外の間で切り替えたときに IPMI GUID が変化します。この予期しない動作は、システム管理の目的で IPMI GUID を使用するアプリケーション (たとえば、Sun xVM Ops Center)、またはサーバープロビジョニングのために SMBIOS UUID を使用して配備を行うことを目的とするアプリケーションに影響する可能性があります。他社のシステム管理ツールまたはサーバープロビジョニングツールを設定する前に、サイドバンドまたは帯域外で使用するための ILOM の設定が完全であることを確認してください。</p> <p data-bbox="498 562 1325 586">影響を受けるソフトウェア</p> <ul data-bbox="498 597 1325 621" style="list-style-type: none"> • Supplemental Software Release 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p data-bbox="498 638 1325 663">回避方法:</p> <p data-bbox="498 673 1325 697">回避方法はありません。パッチが入手可能かどうか確認してください。</p>

VMware 関連の既知の課題

表 11 VMware 関連の既知の課題

CR	説明
6779112	<p>VMware の「Health Status」画面で報告される電源のステータスが誤解を招く</p> <p>課題: VMware Virtual Infrastructure クライアントの「Health Status」画面で「Power」コンポーネントの下には、電源がオンライン状態で有効になっている場合でも、サーバーの電源が「Off-Line Disabled」状態、および 0 W (ゼロワット) であると報告されます。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • VMware ESX 3.5u4 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: VMware Virtual Infrastructure クライアントの「Health Status」画面で電源の正しいステータスを表示するには、使用可能なオプションのリストから「Other」コンポーネントをクリックし、ブレード <i>n</i> の VPS (<i>n</i> はブレードの番号) を表示します。</p> 

表 11 VMware 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6837645	<p data-bbox="498 239 1323 296">VMware ESXi 3.5 Update 4 をインストールしたあと、ローカルストレージドライブが認識されない</p> <p data-bbox="498 317 551 340">課題:</p> <p data-bbox="498 352 1323 458">Sun Blade X6270 サーバーモジュールのローカルストレージドライブが Sun Blade RAID 0/1 RAID 拡張モジュール (X4607A-Z) に接続されている場合は、VMware ESXi 3.5 Update 4 1 をインストールしたあと、ローカルストレージドライブがシステムによって認識されません。</p> <p data-bbox="498 479 1072 501">影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul data-bbox="498 513 1119 572" style="list-style-type: none"> • VMware ESXi 3.5u4 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p data-bbox="498 593 596 616">回避方法:</p> <p data-bbox="498 628 1323 685">ESXi のインストールが完了したあと、次の手順に従ってローカルストレージドライブをストレージインベントリに追加します。</p> <ol data-bbox="498 697 1323 1187" style="list-style-type: none"> 1. Virtual Infrastructure Client を使用して、選択したデータセンターに ESXi ホストを追加します。 2. ステップ 1 で追加した ESXi ホストを選択し、「Configuration」タブをクリックします。 3. ハードウェアボックス (画面の左上) で、「Storage」を選択します。 4. 画面の右上で、「Add Storage...」をクリックします。 5. 「Disk/LUN Storage Type」が選択されていることを確認し、「Next」をクリックします。 6. ローカルストレージドライブに対応する vmhba エントリを強調表示し、「Next」をクリックします。 7. 「Use free space」エントリを選択し、「Next」をクリックします。 8. 「Datastore Name」(たとえば、local_storage) を作成し、「Next」をクリックします。 9. 必要に応じて「Maximum file size」を調整し、「Next」をクリックします。 10. 提案されたディスクレイアウトを確認し、「Finish」をクリックします。 ローカル VMFS データストアが使用可能になるはずですが。

Solaris および OpenSolaris 関連の既知の課題

表 12 Solaris および OpenSolaris 関連の既知の課題

CR	説明
6731637	ブートディスクのサイズ制限
	課題: Solaris 10 05/09 はサイズが 1T バイトを上回るディスクデバイスにインストールできません。
	影響を受けるハードウェアとオペレーティングシステム <ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270• Solaris 10 10/08
	回避方法: この課題は、Solaris の次のリリースで解決される予定です。サイズが 1T バイト以下のブートデバイスに OS をインストールしてください。

表 12 Solaris および OpenSolaris 関連の既知の課題 (続き)

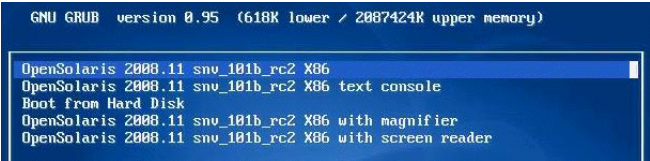
CR	説明
6764573	<p>BIOS で Intel VT-d を有効にしている場合は KVMs リダイレクトが機能しない</p> <p>課題: リモート KVMs リダイレクトされたキーボードとストレージに関連して使用される USB デバイスは、Intel VT-d が有効になっているときは機能しません。リダイレクトされた DVD を使用するインストールは開始できる可能性があります、コンソールに IOMMU 生涯のメッセージが表示されたあと、ハングします。リダイレクトされた USB キーボードもハングします。他のデバイスも影響を受ける可能性があります。障害が発生した場合は、IOMMU の障害を示す次のようなメッセージが表示されます。</p> <pre>WARNING: dmar0,0 generated a fault event when translating DMA read on address 0x0 for PCI(0, 26, 7), the reason is: The Read field in a page-table entry is Clear when DMA read WARNING: /pci@0,0/pci1028,235@1a,7 (ehci0): Unrecoverable USB Hardware Error.</pre> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • OpenSolaris 2008.11 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: 次のいずれかの手順を実行します。 BIOS 内で VT-d を無効にします。 システム起動時に POST が終わったあと F2 キーを押して BIOS Setup 画面に入ります。 「Advanced」タブを選択し、VT-d の設定を無効にします。 または Solaris の GRUB メニューで 「intel-iommu」を無効にします。</p>  <p>注 - GRUB メニューを編集するためのヘルプは、各画面の下端で利用できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インストール中は、次のものを追加することで、GRUB メニューを変更します。 -B intel-iommu=no 2. GRUB メニューが表示されているときに e キーを押して編集を開始し、適切なブートエントリまでスクロールします。 3. 矢印キーを使用して次の行を選択します。 <pre>kernel\$ /platform/i86pc/kernel/\$ISADIR/unix</pre> (次のページに続きます)

表 12 Solaris および OpenSolaris 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6764573 (続き)	<p>回避方法 (続き)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. e キーを押してエントリを編集します。 5. 行に「-Bintel-iommu=no」を追加して次のようにします。 <pre>kernel\$ /platform/i86pc/kernel/\$ISADIR/unix -Bintel-iommu=no</pre> 6. Enter キーを押し、次に b キーを押してブートします。 既存のオプションから成るリストにこのブートオプションを追加する場合は、ブートオプションの区切り文字がコンマ (,) であることに注意してください。 例: <pre>kernel\$ /platform/i86pc/kernel/\$ISADIR/unix -Bconsole= ttya,intel-iommu=no</pre> 7. インストールが完了したあと、ブートする前に、GRUB に関する前述の編集ステップをもう一度実行します。 ブートを行い、/platform/i86pc/kernel/drv/rootnex.conf を編集し、次の行を追加します。 <pre>intel-iommu=no</pre> 8. インストール後に、変更を行います。 <pre>/platform/i86pc/kernel/drv/rootnex.conf: adding intel-iommu=no</pre> 9. 次のコマンドを入力してブートアーカイブを再構築します。 <pre>bootadm update-archive</pre>
6767389	<p>Solaris and OpenSolaris で特定の ExpressModule のホットインサートがサポートされていない</p> <p>課題: Solaris 10 10/08 または OpenSolaris 2008.11 を使用する場合は、次の Express Module をホットインサートすることはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun Fibre Channel – 4Gigabit/Sec PCIe Dual FC / Dual Gigabit Ethernet Host Adapter ExpressModule (EM) (SG-XPCIE2FCGBE-Q-Z) • Fibre Channel – 4Gigabit/Sec PCI-X Dual FC Host Adapter (Emulex) (SG-XPCIE2FCGBE-E-Z) • Sun Quad Gigabit Ethernet Module (X7284A-Z) <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10 10/08 • OpenSolaris 2008.11 • Supplemental Software Releases 1.0, 1.1, 1.2, および 2.0 <p>回避方法: 関係するモジュールを挿入し、それらのモジュールが認識されるようにリポートします。</p>

表 12 Solaris および OpenSolaris 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6783710	<p>Solaris and OpenSolaris で ExpressModule (X1028A-Z) がサポートされていない</p> <p>課題: Solaris 10 10/08 および OpenSolaris 2008.11 の各オペレーティングシステムでは Sun x8 PCI Express Dual 10 Gigabit Ethernet ExpressModule (X1028A-Z および 1108A-Z) がサポートされていません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10 10/08 • OpenSolaris 2008.11 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: このモジュールは今後のリリースでサポートされる予定です。</p>
6836590	<p>USB 2.0 のハイスピードデバイスが正しく列挙されないことがある</p> <p>課題: まれな状況では、Solaris オペレーティングシステムをブートするときに、USB の初期化の問題が発生し、Solaris がハイスピードデバイスを検出しないことがあります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10 10/08 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: Solaris をリポートします。何回か連続してリポートしても USB の列挙の問題が解決しない場合は、問題の原因は、この既知の課題ではありません。</p>

Linux 関連の既知の課題

表 13 Linux 関連の既知の課題

CR	説明
6830785	<p>IPv4 の TX チェックサムオフロードを有効にしている場合に igb.ko ドライバを使用している SLES XEN Host (Dom 0) が XEN Guest (Dom U) パケットをドロップすることがある</p>
	<p>課題:</p> <p>次の条件下では、XEN Host (Dom 0) は物理インタフェースとの間でどちらの方向の送信時にも XEN Guest (Dom U) のネットワークトラフィックを破棄します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. XEN Host (Dom 0) が SLES 10 SP2 オペレーティングシステムを使用しています。2. 受信箱の SLES 10 SP2 Intel igb.ko ドライバが XEN Host (Dom 0) で使用されています。3. XEN Guests (Dom U) で IPv4 TX チェックサムが有効になっています。4. XEN Guests (Dom U) が、最適化された準仮想化 NIC ドライバを使用しています。
	<p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none">• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 Service Pack 2• Supplemental Release 1.0、1.2、および 2.0
	<p>回避方法:</p> <p>この課題を解決するために、SLES 10 SP2 用の新しいバージョンのドライバがすでにコンパイルされています。最新のバージョンのドライバにアップグレードしてください。この課題は Novell SLES サポートによって、次の場所で入手できる技術情報 (TID) という形ですでにドキュメント化されています。</p> <p>http://www.novell.com/support/php/search.do?cmd=displayKC&docType=kc&externalId=7003448&sliceId=1&docTypeID=DT_TID_1_1&dialogID=39728435&stateId=0%200%2060594008</p> <p>この課題を修正する最新の igb ドライバの詳細は、前述の TID を参照してください。</p>

表 13 Linux 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6729577	<p>PCIHP ホットプラグデフォルトドライバが SLES10 SP2 でサポートされていない</p> <p>課題: SLES10 SP2 は、PCI Express のルートポートに対する割り込みを無効にしています。その結果、デフォルトドライバオプションを使用すると、PCIHP ホットプラグが正しく機能しません。ホットプラグアクションを試みた場合は、USB デバイスが意図せずに無効になる可能性があります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2 (SLES10 SP2) • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: 次のパラメータを指定して pciehp ドライバを読み込む必要があります。 pciehp_poll_mode=1 たとえば、次のように入力します。 modprobe pciehp pciehp_poll_mode=1</p>
6763570	<p>RHEL 4.7 でホットプラグドライバの読み込みを防止するための優先メソッド</p> <p>課題: Sun Blade X6270 サーバーモジュールでは、管理者が優先メソッドを選択し、Red Hat Enterprise Linux 4 がホットプラグドライバ (acpiphp または pciehp) を読み込むことを防止する必要があります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.7 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: install コマンドを使用して /etc/modprobe.conf の中で、望ましくないモジュールをブラックリストに指定し、PCIe バスのイベントに対応してカーネルによって正しくないホットプラグモジュールが呼び出されたときに、そのモジュールの代わりに /bin/true を実行するようにシステムに指示します。 たとえば、次のように入力します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. /etc/modprobe.conf を編集します。 2. 次の行のいずれかを追加します。 install acpiphp /bin/true ;#blacklist acpiphp または install pciehp /bin/true ;#blacklist pciehp <p>詳細は、次の場所にある、RHEL4 製品に関する『Red Hat Release Note』を参照してください。 http://www.redhat.com</p>

表 13 Linux 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6831175	<p>RHEL4.x の PCIe ホットプラグドライバが、ブリッジチップを搭載した IO カードのホットインサートを正しく処理できない</p> <p>課題: 古いコードが原因で、ブリッジチップを搭載した次の IO カードのホットプラグを試みると、システムがハングする可能性が高くなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun StorageTek Dual 4 Gb FC Dual GbE HBA Qlogic (SG-XPCIE2FCGBE-Q-Z) • Sun StorageTek Dual 4 Gb FC Dual GbE HBA Emulex (SG-XPCIE2FCGBE-E-Z) • Sun x4 PCIe Quad Gigabit Ethernet ExpressModule (X7284A-Z) <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • RHEL 4.x • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: 現在、使用可能な修正はありません。RHEL4 のサポート期間終了が近いため、この課題は修正されない可能性があります。ブリッジチップを搭載した IO カードをホットインサートする必要があるユーザーは、RHEL 4.x 配下では古い acpiphp ホットプラグドライバを使用するべきです。</p>
6766163 6766172 6771124	<p>レガシー PCIe ホットプラグは SLES10 SP2 でサポートされていない</p> <p>課題: SLES10 SP2 は Sun Blade X6270 サーバーモジュール上ではレガシーホットプラグを実行できません。ブート時にカーネルは PCIE_AER ドライバを読み込みます。このドライバは BIOS/ACPI _OSC メソッドを使用して PCIe ホットプラグスロットに対する NATIVE (pciehp) 制御を取得します。この動作が発生したあと、レガシー (acpiphp) ホットプラグドライバを決して読み込まないでください。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2 (SLES10 SP2) • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: Sun Blade X6270 サーバーモジュールでは、SLES10 SP2 とともに pciehp ホットプラグドライバを使用する必要があります。 Sun Blade X6270 サーバーモジュールでは、SLES10 SP2 とともに acpiphp ホットプラグドライバを使用するべきではありません。</p>

表 13 Linux 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6771120	<p data-bbox="498 244 1172 270">RHEL 5.3 を使用するときには良性のエラーメッセージが表示される</p> <p data-bbox="498 288 551 314">課題:</p> <p data-bbox="498 322 1328 404">RHEL 5.3 を使用するとき、ブートログの中で良性のエラーメッセージが表示されることがあります。これらの良性のメッセージは、Aspeed ビデオデバイスの PCI デバイスプローブに関連しています。</p> <p data-bbox="498 413 801 439">良性のエラーメッセージの例:</p> <ul data-bbox="498 444 1025 470" style="list-style-type: none"> • PCI: Ignore bogus resource 6 [0:0] of 0000:20:05.0 <p data-bbox="498 479 568 505">または</p> <ul data-bbox="498 510 1025 536" style="list-style-type: none"> • PCI: Ignore bogus resource 6 [0:0] of 0000:35:05.0 <p data-bbox="498 557 1072 583">影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul data-bbox="498 591 1119 652" style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.3 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p data-bbox="498 670 596 696">回避方法:</p> <p data-bbox="498 704 1315 756">これらのエラーメッセージは良性であり、システムの安定性やパフォーマンスに影響しません。</p>
6800672	<p data-bbox="498 777 1119 803">ixgbe (1.3.53) ドライバが RHEL 5.3 でサポートされていない</p> <p data-bbox="498 821 551 847">課題:</p> <p data-bbox="498 855 1296 937">Large Receive Offload に関する設定を無効にしない限り、Intel の最新の ixgbe (1.3.53) ドライバは RHEL 5.3 上で PCI Express Single (1106A-Z) または Dual (1180A-Z or 1107A-Z) 10-Gigabit Ethernet 用にコンパイルできません。</p> <p data-bbox="498 954 1072 980">影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul data-bbox="498 989 1119 1050" style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.3 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p data-bbox="498 1067 596 1093">回避方法:</p> <p data-bbox="498 1102 1186 1119">以前の ixgbe ドライバ (1.3.47) を使用してコンパイルしてください。</p>

表 13 Linux 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6801897	<p>RHEL 4.7 の ipmi_si ドライバはデフォルトのパラメータを指定すると読み込めない</p> <p>課題: IPMI サービスの開始に失敗します。RHEL 4.7 の ipmi_si ドライバはデフォルトのパラメータを指定すると読み込めません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.7 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Edit /etc/modprobe.conf を編集します。 2. 次の行を追加して ipmi_si ドライバのデフォルトのパラメータを変更します。 <code>options ipmi_si type="kcs" ports=0xCA2 regspacings="4"</code> 3. 変更を保存し、終了します。 4. サービスを停止します。 <code>/etc/init.d/ipmi stop service ipmi stop</code> 5. サービスを起動します。 <code>/etc/init.d/ipmi start service ipmi start</code>
6803871	<p>特定の状況では RHEL 5.3 で大量の割り込みが発生することがある</p> <p>課題: 次の HBA デバイスをサーバーで同時に構成する場合は、カーネルが Emulex ドライバをインストールするときに、RHEL 5.3 を実行している Sun Blade X6270 サーバーモジュールで大量の割り込みが発生する可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • StorageTek PCI-E 4 Gb FC Host Bus Adapter PCI-Express EM (SG-PCIE2FC-QB4-Z) • StorageTek PCI-E 4 Gb FC Host Bus Adapter with Emulex HBASG-PCIE2FC-EB4-Z (SG-PCIE2FC-EB4-Z) <p>この構成が存在している場合は、次の変則性が発生する可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2 秒以内に 100K (10 万) の割り込みが発生したあと、USB デバイスが無効になります • QLogic デバイス上の LUN に関して、一部の LUN が登録されません <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.3 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: パッチは予定されていません。RHEL 5.3 を実行している Sun Blade X6270 サーバーモジュールで SG-PCIE2FC-QB4-Z と SG-PCIE2FC-EB4-Z をともに使用しないでください。</p>

Windows 関連の既知の課題

表 14 Windows 関連の既知の課題

CR	説明
6746934	<p>ホットプラグ操作のあと、一部の PCI Express モジュールで STOP エラーメッセージが表示されるか、モジュールがデバイスリストの中に表示されない</p> <p>課題: Windows Server 2008 ベースのコンピュータまたは Windows Vista ベースのコンピュータに、「ホットプラグ」機能を使用して PCI Express デバイスを追加または削除したときに、「0x00000124」STOP エラーメッセージが表示されます。 注 - ソフトウェアのインストールプロセスの実行中にもこの課題が発生する可能性があります。</p> <p>さらに、一部の PCI Express モジュールはホットプラグ操作のあと、サービス状態に正しく復帰しない可能性があります。モジュールがデバイスリストの中に表示されない、またはデバイスの説明の隣に黄色い感嘆符が付いた状態で表示される可能性があります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2008• Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: Microsoft は、PCI Express 用の更新された PCI バスドライバがあります。このドライバは、ルートポートが無効にされ、再有効化された場合に、PCI Express のルートポートで Max Payload Size が不適切に設定される可能性がある潜在的なバグを解決します。</p> <p>次のサポート技術情報の記事を参照してください。その中には、この問題が発生したときにダウンロードできる修正モジュールへのリンクが含まれています。 http://support.microsoft.com/kb/952681</p>

表 14 Windows 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6756232	<p>Windows の Setup ユーティリティーが コンパクトフラッシュ (CF) カードを検出できないことがある</p> <p>課題: Windows Server 2003 の Setup ユーティリティーはシステムブートファイルを、ブート順序の中で最初に見つかったディスクにコピーします。Windows はコンパクトフラッシュ (CompactFlash、CF) デバイスを ATA クラスのデバイスとして検出しますが、CF は USB バスを使用して接続されています。Microsoft は Windows Server のシステムブートデバイスとして、USB を使用して接続されているドライブをサポートしていません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2003 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法 CF カードは、Boot Device Priority List の中で、ターゲットディスクより低い優先順位にする必要があります。詳細は、Sun Blade X6270 Server Module Service Manual (820-6175) の「BIOS」の節を参照してください。</p>
6783026 6759267 6783538 6806081	<p>InfiniBand ExpressModule のホットインサートまたは電源を入れたままの取り外しが許可されるのは、スケジュールされたダウンタイムの間のみ</p> <p>課題: Sun Dual Port DDR IB Host Channel Adapter PCIe ExpressModule (X4216A-Z) のホットプラグ操作を試みると、PCI Express バスで回復不能なエラーが発生します。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: Windows Server 2008 を実行している場合は、このデバイスのホットインサートまたは電源を入れたままの取り外しを試みないでください。必要な場合は、スケジュールされたダウンタイムの間のみ、InfiniBand ExpressModule の削除または追加を実行する必要があります。</p>

表 14 Windows 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6783538	<p data-bbox="498 239 1326 296">Windows のデバイスマネージャーで IB PCIe ExpressModule を無効にすると、エラーを示すブルースクリーンが表示されることがある</p> <p data-bbox="498 314 1326 461">課題: Sun Dual Port 4x QDR IB Host Channel Adapter PCIe ExpressModule (X4219A-Z) のオプションを Windows のデバイスマネージャーで無効にした場合は、Windows Server 2008 は停止し、次のバグチェックを示すブルースクリーンが表示されます。0x122 - General WHEA Error.</p> <p data-bbox="498 479 1326 574">影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア:</p> <ul data-bbox="498 513 1326 574" style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p data-bbox="498 591 1326 791">回避方法:</p> <ul data-bbox="498 626 1326 791" style="list-style-type: none"> • Windows のデバイスマネージャーで、Sun Dual Port 4x QDR IB Host Channel Adapter PCIe ExpressModule のオプションを無効にしないでください。このモジュールを無効にした場合はブルースクリーンが表示され、回復の目的でシステムをリポートすることになります。Sun Dual Port 4x QDR IB Host Channel Adapter PCIe ExpressModule はリポート時に有効になります。 • この欠陥のパッチが入手可能かどうかを確認してください。
6793369	<p data-bbox="498 812 1326 869">Windows Server 2008 で特定の ExpressModule のホットインサートがサポートされていない</p> <p data-bbox="498 887 1326 982">課題: Windows Server 2008 を使用する場合は、次の Express Module をホットインサートすることはできません。</p> <ul data-bbox="498 982 1326 1130" style="list-style-type: none"> • Sun Fibre Channel – 4 Gigabit/Sec PCI-E Dual FC / Dual Gigabit Ethernet Host Adapter ExpressModule (EM) (SG-XPCIE2FCGBE-Q-Z) • Fibre Channel – 4Gigabit/Sec PCI-X Dual FC Host Adapter (Emulex) (SG-XPCIE2FCGBE-E-Z) • Sun Quad Gigabit Ethernet Module (X7284A-Z) <p data-bbox="498 1147 1326 1242">影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul data-bbox="498 1182 1326 1242" style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p data-bbox="498 1260 1326 1338">回避方法: 関係するモジュールを挿入し、それらのモジュールが認識されるようにリポートします。</p>

表 14 Windows 関連の既知の課題 (続き)

CR	説明
6863766	<p data-bbox="418 244 1242 357">Windows Server 2003 64-bit を QLogic Fiber Channel HBA 経由で Fiber Channel Array にインストールするためにツールとドライバ CD から作成したフロッピーディスクまたはツールとドライバ CD 上のフロッピーイメージ (QLogic64.img) を使用するとインストールが失敗する</p> <p data-bbox="418 371 472 395">課題:</p> <p data-bbox="418 406 1242 656">Windows Server 2003 64-bit を QLogic Fiber Channel HBA 経由で Fiber Channel Array にインストールするために、ツールとドライバ CD から作成したフロッピーディスクまたはツールとドライバ CD 上で使用できるフロッピーイメージ QLogic64.img を使用するとインストールが失敗し、セットアッププロセスではあとで「ブルースクリーン」が発生します。インストールが失敗する原因は、ツールとドライバ CD で使用できる SAN ドライバセットに収録されている 64 ビットの QLogic Boot には、不適切な組み合わせのファイルが含まれているからです。この結果、インストールプロセスの終了の少し前にバグチェック 0x07B が発生します。</p> <p data-bbox="418 673 982 697">影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul data-bbox="418 708 1062 769" style="list-style-type: none"> • Windows Server 2003 64-bit • Supplemental Releases 1.0、1.1、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p data-bbox="418 786 515 810">回避方法:</p> <p data-bbox="418 821 1235 928">訂正された QLogic ドライバセットである Boot from SAN for STOR Miniport 64-bit Driver (x64) は、QLogic 接続された Fiber Channel Array に Windows 2003 64-bit をインストールすることを目的とし (インストール開始時に F6 キーを押してこのドライバを使用)、次の Web サイトからダウンロードできます。</p> <p data-bbox="418 939 1215 991">http://driverdownloads.qlogic.com/QLogicDriverDownloads_UI/Sun_Details.aspx?productid=928&OSTYPE=Window&oeid=124</p> <p data-bbox="418 1034 1215 1086">ツールとドライバ CD のソフトウェアに対する更新の中で、修正が使用可能になっているかどうか確認してください。</p>

Sun Installation Assistant の既知の課題

表 15 Sun Installation Assistant の既知の課題

CR	説明
6851222	<p>SIA には Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE Network Express Module 用のドライバが含まれていない</p> <p>課題: SIA を使用して、Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE Network Express Module を含むシャーシの中にある Sun Blade X6270 サーバーモジュールにオペレーティングシステムをインストールする場合は、このデバイス用のドライバがインストールされません。</p> <p>注 – Windows Server 2003 をインストールする場合は、最初にログインするときに「新しいハードウェアが見つかりました」ウィザードが実行される可能性があります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2003 および 2008• RHEL 4.7、5.1、5.2、5.3• SLES 10 SP2• Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: 次の場所から Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE Network Express Module Tools and Drivers CD をダウンロードし、その中で見つかるドライバを手動でインストールします。 http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp</p>

表 15 Sun Installation Assistant の既知の課題 (続き)

CR	説明
6798618 6800204	SIA の自動更新に関するオプションを選択していない場合はエラーを示すブルースクリーンが表示されることがある
6806734 6813789	<p>課題:</p> <p>SIA を使用して Sun Blade X6270 サーバーモジュールに Windows Server 2008 をインストールし、SIA の自動更新を選択解除すると、インストールが失敗し、バグチェックを示すブルースクリーンが表示される可能性があります。</p>
	<p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0
	<p>回避方法:</p> <p>この課題に対応する次の回避方法のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIA のインストールをもう一度開始し、SIA の自動更新に関するオプションを受け入れます。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • BIOS Setup ユーティリティで ACHI モードを無効にし、インストールをもう一度開始します。次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. BIOS Setup ユーティリティの「Advanced」メニューで「On-board SATA Configuration」を選択し、Enter キーを押します。 2. 「Configure SATA#1」に関するオプションを選択し、Enter キーを押します。使用可能なオプションのリストを示すタブが表示されます。 3. このタブで、IDE に関するオプションを選択し、Enter キーを押します。 4. 変更を保存して BIOS セットアップユーティリティを終了するために、F10 キーを押します。 5. インストールメディアから Windows Server 2008 を直接インストールします。

表 15 Sun Installation Assistant の既知の課題 (続き)

CR	説明
6805366	<p>SIA を使用するとき Windows Server 2003 用の AHCI デバイスドライバをインストールできない</p> <p>課題: LSI デバイスまたは Sun StorageTek Raid Host Bus Adapter のドライバをインストールする場合、SIA が Windows Server 2003 インストール用の AHCI デバイスドライバを自動的にインストールできないことがあります。SIA は AHCI デバイスドライバをディスク (インストールターゲット) にコピーしますが、ユーザーが Windows のデバイスマネージャーを使用して AHCI ドライバをインストールする必要が生じることがあります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2003 • Supplemental Software Releases 1.0、1.1、1.2、および 2.0 <p>回避方法: この課題に対応する次の回避方法のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows のデバイスマネージャーを使用して、ディスク (インストールターゲット) にコピーされた AHCI デバイスドライバをインストールします。 Windows のデバイスマネージャーを使用してデバイスドライバを更新またはインストールする方法は、Windows のデバイスマネージャーのドキュメントを参照してください。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIA のインストールをもう一度開始し、次のステップを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. SIA の自動更新に関するオプションを受け入れます。 2. 次の場所から最新の SIA CD をダウンロードします。 http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp 3. インストールをもう一度開始します。

表 15 Sun Installation Assistant の既知の課題 (続き)

CR	説明
6835303	<p data-bbox="418 239 1239 296">NFS を使用して Red Hat オペレーティングシステムの ISO イメージをインストールするときに SIA のインストールが正しく機能しない</p> <p data-bbox="418 314 472 340">課題:</p> <p data-bbox="418 348 1246 461">NFS (Network File Ssystem) サーバーを使用してエクスポートされている ISO イメージから Red Hat オペレーティングシステムをインストールする方法を選択した場合は、Red Hat インストールに関するプロファイルがインストールに伝達されません。この結果、次の動作が発生します。</p> <ul data-bbox="418 470 1246 583" style="list-style-type: none"> • Anaconda はインストールタイプ (デスクトップ、クライアント、サーバー、または最小) をユーザーに問い合わせます。 • 個別のパッケージがインストールのタイプに応じて事前に選択されることがなく、ユーザーがパッケージを手動で選択する必要があります。 <p data-bbox="418 600 986 626">影響を受けるオペレーティングシステムとソフトウェア</p> <ul data-bbox="418 635 951 696" style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.x および 5.x • Supplemental Release 1.0、1.2、および 2.0 <p data-bbox="418 713 515 739">回避方法:</p> <p data-bbox="418 748 1232 800">SIA を使用して Red Hat オペレーティングシステムをインストールする場合は、NFS を使用してエクスポートされているイメージを使用しないでください。</p>

ドキュメント関連の既知の課題

表 16 ドキュメント関連の既知の課題

CR	説明
6851878	<p>サーバーの周囲温度センサーに関する内容の不足</p> <p>課題: Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 (ILOM) 補足マニュアル Sun Blade X6270 サーバーモジュール』(820-7774) および『Sun Integrated Lights Out Manager 3.0 (ILOM) 補足マニュアル Sun Blade X6270 サーバーモジュール (821-0054) の中にあるセンサーの説明では、/SYS/MB/T_AMB と /SYS/T_AMB の各センサーの配置場所が示されていません。</p> <p>訂正情報</p> <ul style="list-style-type: none"> • /SYS/MB/T_AMB: マザーボード周囲温度センサーは、ストレージドライブのすぐ後ろに位置する、マザーボードの前面に配置されています。 • /SYS/T_AMB: システム周囲温度センサーは、ファンボードの下側に配置されています。
6841295	<p>SLES11 と VMware ESX または ESXi 4.0 では更新されたインストールの説明が必要</p> <p>課題: Sun Blade X820 Server Module Linux, VMware, Solaris, and OpenSolaris Operating Systems Installation Guide (Sun Blade X6270 サーバーモジュール用 Linux, VMware, Solaris, および OpenSolaris オペレーティングシステムインストールガイド) (820-6176) には、次のオペレーティングシステムのサポートされているエディションに関するインストールの説明がありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 • VMware ESX または ESXi 4.0 <p>回避方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> • SLES 11 のインストールの詳細は、『SUSE Linux Enterprise Server 11 Deployment Guide』に掲載されているインストールの説明を参照してください。このガイドは、次の Novell Document Web サイトからダウンロードできます。 http://www.novell.com/documentation/sles11/index.html • VMware ESX または ESXi 4.0 のインストールの詳細は、次の場所にある VMware ESX または ESXi のドキュメントを参照してください。 http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html <p>Sun Blade X6270 サーバーモジュールにこれらのオペレーティングシステムをインストールする方法を説明する、更新された内容は、『Sun Blade X820 Server Module Linux, VMware, Solaris, and OpenSolaris Operating Systems Installation Guide』(Sun Blade X6270 サーバーモジュール用 Linux, VMware, Solaris, および OpenSolaris オペレーティングシステムインストールガイド) (820-6176) の次回刊行に掲載される予定です。</p>

